

貯蔵景 - 貯蔵と制作から捉える島嶼的集落像 - StockScape -The Image of Island Settlements from the Perspective of Storage and Production-

準会員 山崎侃之介
正会員 友淵貴之
宮城大学 事業構想学群

YAMAZAKI Kannosuke
TOMOBUCHI Takayuki
School of Project Design

1. 設計趣旨

現代の消費社会では、地域は主に「便利かどうか」で評価される傾向にある。その結果、離島や遠隔地は都市部と比較され、物資の購入や移動の利便性が低いことから「住みにくい場所」とみなされがちである。しかし、本来こうした地域には、それぞれの風土に根ざした独自の生活や知恵があり、便利さのみを基準に優劣を決めるべきではない。都市と地方の価値を一元的な尺度で比較するのではなく、それぞれの特性を活かした暮らし方を見直すことが求められる。

宮城県塩釜市浦戸諸島も、このような現代的な評価基準のもとで不利な立場に置かれている遠隔地の一つである。本提案では、都市と地方の優劣関係を見直し、浦戸諸島の風土に適した本来の生活を取り戻すことを目指す。そのためのコンセプトが「StockScape」である。

StockScape とは、地域に存在する知恵や資源に「振る舞い」を加え、それらが集積しながら再構築されることで生まれる新たな風景を指す。ここでは、人はモノに囲まれ、モノもまた人に囲まれながら、互いに影響を与え合い、一つの景観を形成する。個々の要素が単独で存在するのではなく、それぞれが関係し合いながら、地域独自の生活環境を形作っていく。この考え方によって、利便性のみを追求するのではなく、地域に根ざした暮らしの価値を再評価し、住み続けられる集落のあり方を提示することが目的である。都市的な価値観に基づく利便性の追求ではなく、地域の風土が反映された貯蔵と制作の風景を作ることが、遠隔地における新しい生活体系の提案であり、StockScape の理念である。



2. リサーチ・分析

浦戸諸島に残る自治性の種：制作物

敷地は宮城県浦戸諸島石浜地区である。ここでは島内資源を組み合わせで作られた制作物が散見される。自治性が低下している中で残るこれらの制作物は自治性の種と言える。153個91種類の制作物をリサーチし、事例を採集した。この事例をデータベースに資源の寸法・組み合わせ方・相性の分析を行った。



対称的な資源の扱われ方

資源は制作物として利用される一方で、ゴミ同然に放置されていることも確認できる。元は同じ漁具であるものの対称的な状態にある。



貯蔵場所として有効活用される資源



ゴミ同然に放置されている資源

制作物の発生プロセス

資源が不要になった後、すぐに処分されず一度ストックというプロセスをささむことにより時間的な余白が生まれ制作物に利用されやすくなる。



4つの主要資源

下記の4つは様々な資源と併せて利用されていたため主要資源と定めた。海苔イカダは多くの制作物の構造体として利用されていた。



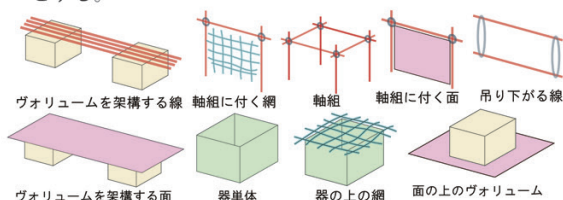
対称的な資源の扱われ方

制作物で使われていた資源を可能な限り寸法まで調査し、記録した。島内資源で構成されるこの建築では資源の寸法がモジュールとなり設計に取り込まれる。

角材	海苔イカダ	鉄筋	鉄パイプ	竹	洗濯竿	バケツ	タイヤ	ビールケース	ドラム缶	フロート	ブロック塀
h: *910 w: x d: x	h: 4,000 w: 40 d: x	h: x φ: 11	h: 910/1200 φ: 200/400 φ: 11	h: x φ: x	h: x φ: x	h: x φ: 145	h: 145 φ: 542	h: 280 φ: 450 d: 385	h: 890 φ: 585	h: 550 φ: 625	h: 150 w: 390 d: 190
クランプ	漁具用ロープ	釘	漁網	園芸用ネット	干し枠	ブルーシート	波板	木板	足場板	パレット	船
h: x φ: x	h: x φ: x	h: x φ: x	h: x w: x d: x	h: x w: x d: x	h: x w: x d: x	h: *910 w: *910	h: 145/200/300/400 w: 555	h: *910 w: 600/800 x	h: x w: 240 d: *500	h: *500 w: 1,000 d: 120	h: x w: x d: x

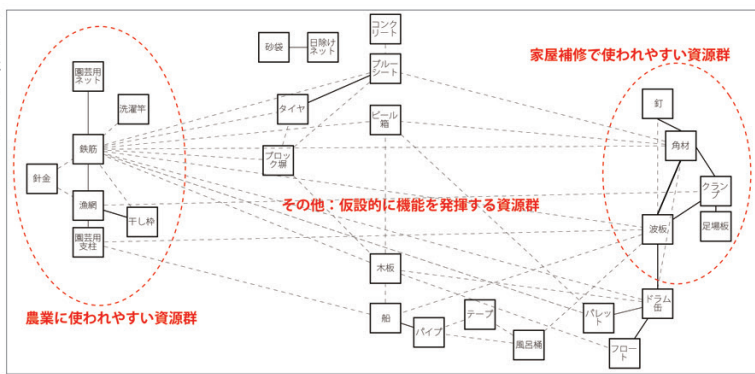
制作物の抽象モデル

普遍的な制作物の構成方法を把握するため、資源の抽象化を行った。ここで得られた抽象モデルは資源を再構成する際のレファレンスとする。



資源の体系化

制作物の事例の中で資源どうしが同時に使われていた回数から資源の相性をネットワーク化した。右図赤字の3つの資源群が確認できた。この資源群の発見は資源の配置を示すストックプランの決定する際のレファレンスとする。



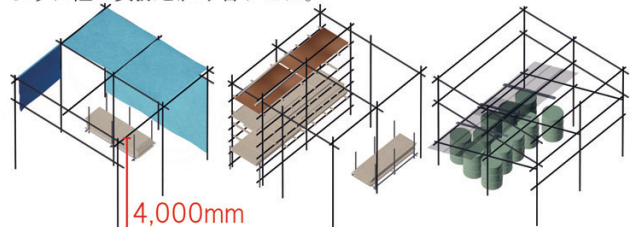
所在地: 宮城県塩釜市浦戸諸島石浜地区
 主な用途: 集落施設
 敷地面積: 5448.8 m²
 建築面積: 1017.7 m²
 延べ床面積: 373.2 m²
 キーワード: 貯蔵、自主制作、島嶼地域

Location: Ishihama District, Urado Islands, Shiogama City, Miyagi Prefecture
 Main Use: Village Facilities
 Site Area: 5448.8 m²
 Building Floor Area: 1017.7 m²
 Total Floor Area: 373.2 m²
 Keywords: Stock, Self-Build, Island Area

設計—要素の再構成と貯蔵機能の挿入による新しい風景—

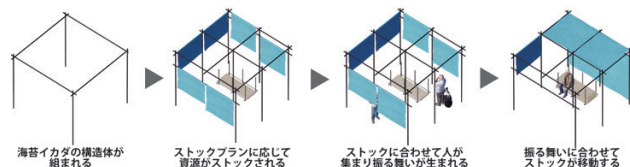
建材化する資源

島民の制作方法に倣い、海苔漁で使う海苔イカダを構造体とした。長さ 4000mm の海苔イカダが構造体となり生まれる不都合を補うように他の資源を組み合わせた。



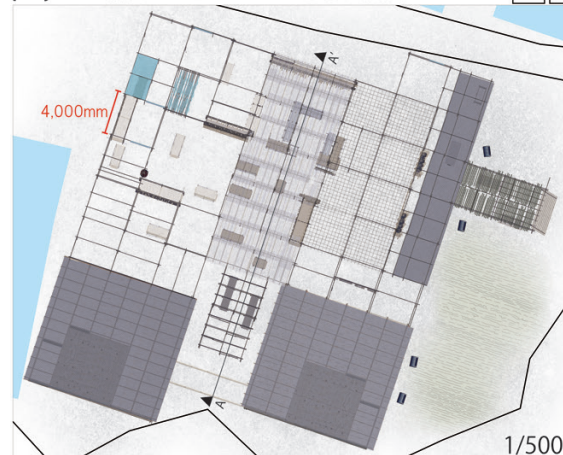
機能から生まれる振る舞いとストックの相互関係

配置した機能から生まれる振る舞いが起こすストックの変化と、設定したストックプランのストックが起こす振る舞いの変化を考える。それらは相互的に影響し合い、変化し続ける 1 つの風景を作る。



project1: 番屋ゲストハウス + とり農園

Stock = 角材 木板 波板 釘 クラン 足場板 プルーフ + 針金 養生用ネット 漁網 フロー ドラム缶



屋内空間を持ち、木造のスケルトンの建築。観光客の宿泊施設や移住者の仮の家、冬のコミュニティの場として機能する。

足場板・木板



足場板や木板が机としてストックされ、人の居場所を作る。

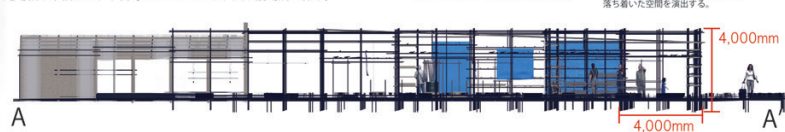


波板 海苔イカダ

波板は、波板が変化することで内部の開放性が変化する。

海苔イカダは、波板が変化することで内部の開放性が変化する。

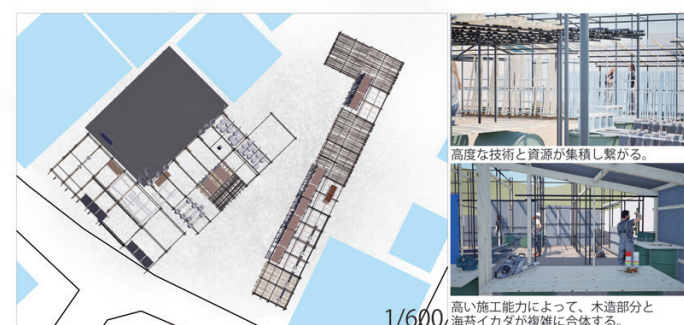
プルーフが波板や木造の間に空間を区切り、落ち着いた空間を演出する。



project2: ムズカシイ工房

Stock = 針金 鉄筋 バイブ パレット フロー 波板 ドラム缶 角材 クラン

金属加工をはじめとした、難易度の高い制作を行う場所。



高度な技術と資源が集積し繋がる。

高い施工能力によって、木造部分と海苔イカダが複雑に合体する。

project3: 海風ダイニング

Stock = フロー 波板 バイブ パレット フロー 波板 ドラム缶 角材 クラン

漁師や観光客の休憩や、島民の憩い、に利用される場所。仮設的な調理場がある。



観光客と島民が同じ空間で憩う。

道路向かいの番屋ゲストハウスと人・資源が行き来する。

project4: ヒトモノ待合所

Stock = X

船を待つ人や利用用途の分からない資源が待つ場所。海苔イカダの構造体に波板が張り付いた様々なプロポーションのヴォリュームがヒトや資源の受け皿になる。



使い方の分からない資源と船を待つ人が同居する。 待合と接続した漁業作業場で漁師が作業を行う。